

CSIRTのセッションを企画・主催して

登山 昌恵

JPCERT/CC 国際部

2023/12/27

■ CSIRTs: A Global Dialogue with Cyber Incident Responders

- ワークショップ
- Day 2: Tuesday 10 October
- 8:30-9:30 am

■ Meeting Spot for CSIRT Practitioners

- ネットワーキングセッション
- Day 1: Monday 9 October
- 8:30-9:30 am



ワークショップの目的・成果

- CSIRT組織への認知や意識を高め、グローバルな協力における課題を整理し、できることを議論する
 - CSIRTコミュニティは国境を越えたインシデント対応にあたっているが、近年、政治的要素がそれを困難にさせている。
 - コミュニティ内の資源の差を埋めることが課題でもある。
 - **CSIRTは緊急対応の機微な情報を扱うばかりではないこと、むしろそれ以外の平時のコラボレーション活動（演習やワーキンググループ活動）が有事の連携に活かされる**
 - サイバーセキュリティにかける十分な**資源、資金がない団体や、大企業や国といった権力を忌み嫌う団体も社会の一員であるため、そのような団体へのリーチ、支援が課題**

ネットワークینگセッションの目的・成果

- CSIRT実務者がカジュアルな会話を行える場所を提供する
 - 「セキュア、オープン、自由なインターネット」を一度に実現するのは難しく、**CSIRT実務者は日々、この3つのバランスを取る必要に迫られている。**
 - オープンでない国の人々との交流も必要だ。
 - サイバーセキュリティの実務者は、政府、アカデミア、公共インフラを扱う企業あるいはアプリのセキュリティを扱う企業、などさまざままで、**すべてが異なるスタイルで異なる情報を扱っている。**
 - 情報共有の強化とキャパシティビルディングは**実施後適切に評価されているのか**、あるいは**他にどのような解決策があるのか**、という点を議論すべきではないか。

セッション運営をしてみても

- 完全に「聴講者」だったIGF2022
 - 聞こえがいい進行
 - 民間事業者の登壇が少ない
 - 成果発表会のようなセッション
- 「オーガナイザー」を務めたIGF2023
 - 自分の率直なコメント（上記）が手厳しい！

セッション運営をしてみても

- マルチステークホルダーフォーラム、IGFならではの議論展開をしたい
 - 自分の「仲間」を呼ぶことすら難しかったので、異なるステークホルダーをセッションに呼ぶことはさらに難易度が高い
- 面白いセッション = 聴講者自らが考える余地のあるもの
 - 例えばセッションにCSIRTに批判的なスピーカーを招く、とあるインシデントの被害者、対応者（ISPなど）、ユーザーを招く

IGFに対する所感

- IGFのセッション一つひとつ、Regional IGF, National IGF レベルで話された議論が本当に政策決定に影響を及ぼしているのか
 - 実施後レポートの意義
 - “好ましい”形式から漏れたローカルな議論は中央に共有されないのではないか
- 異なる分野同士の人たちが即興で集まる場がない（そして意欲もない）ので、予定調和の議論しかできないのではないか
- 各会議形式のセッションが互いに関連性をもたず断片化していないだろうか
- 大規模セッションの裏番組は不遇。国（とくに主催国やそのLike-mindedな国）によって注目度や重要度の操作・順位付けがされているように感じてしまった

まとめ

- セッション運営の目的を達成した
- 一方で課題も見えてきた
- とにかく巨大なIGF：参加3回目くらいでやっと全体像が
臆げに見える
- 今後も継続参加し、セッション提案も検討する
- IG議論をセキュリティ界隈に広めていきたい
 - JPCERT/CC 公式ブログ ([こちらから](#))
 - JNSAメールマガジンに寄稿予定